

トラック輸送情報（平成20年8月分）

平成20年11月27日

国土交通省 総合政策局 情報政策本部 情報安全・調査課 交通統計室

担当：桑原、佐藤 内線28722

直通：03-5253-8346

ホームページ：<http://toukei.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

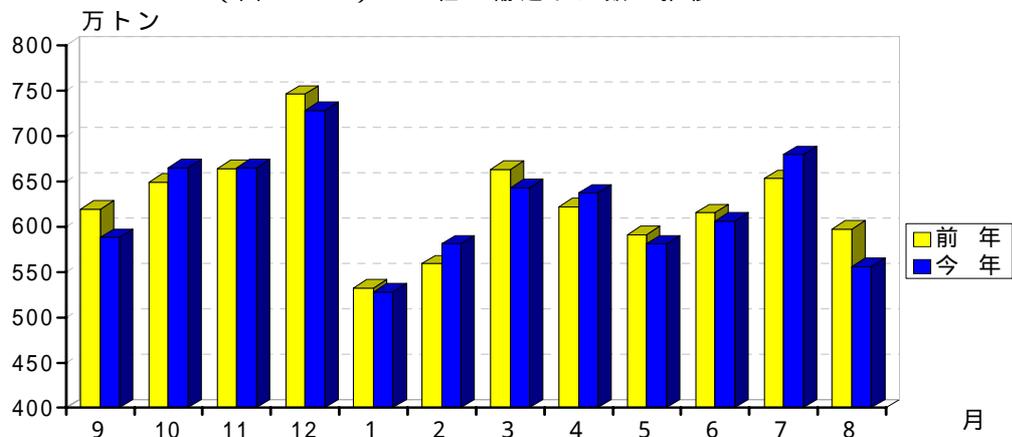
調査対象26社の本月の輸送量は、5,562,176トンで、前月と比べ総輸送量が約123万トン減少したため、前月比81.9%（季節調整済み94.8%）となり、前年同月との比較では、約41万トン減少したため、前年同月比93.2%の実績であった。

なお、平均稼働日数は22.7日で、前月と比べ2.6日の減少、前年同月と比べ0.8日の減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、245,030トンで、前月と比べ約2万4千トン減少したため、前月比91.2%となり、前年同月との比較では、約9千トン減少したため、前年同月比96.5%の実績であった。

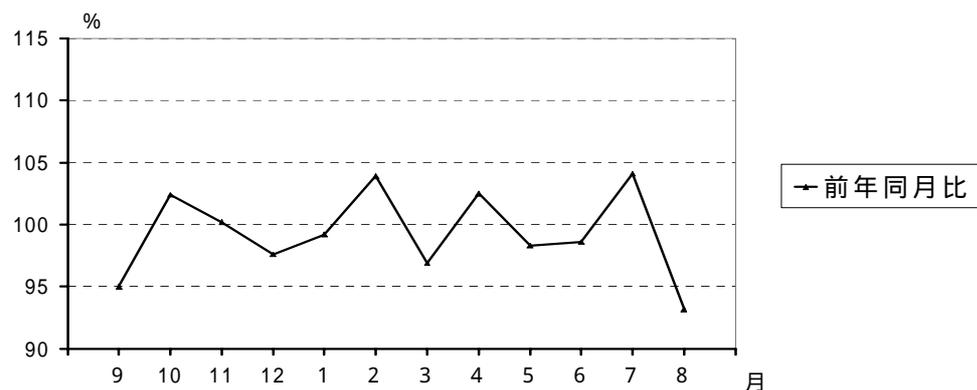
（図1-1、図1-2参照）

注）平成20年4月から貨物輸送の調査対象については、従来対象としていた7社の合併により26社となった。

（図1-1）26社の輸送トン数の推移



（図1-2）26社の輸送トン数の前年同月比



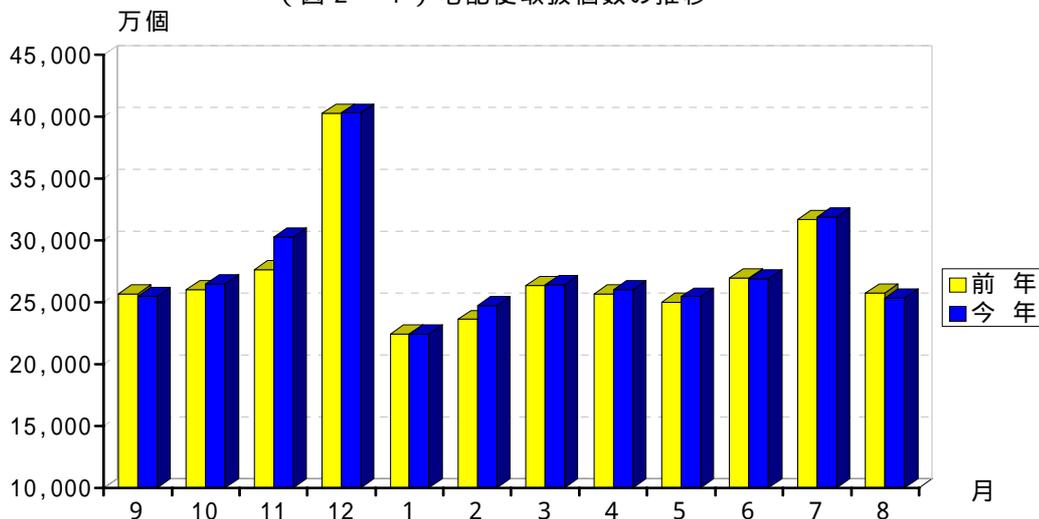
(2) 宅配便の概況

調査対象 20 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、253,399 千個で、前月と比べ 約 6,527 万個減少したため、前月比 79.5% (季節調整済み 96.7%) となり、前年同月との比較では、約 387 万個減少したため、前年同月比 98.5%の実績であった。

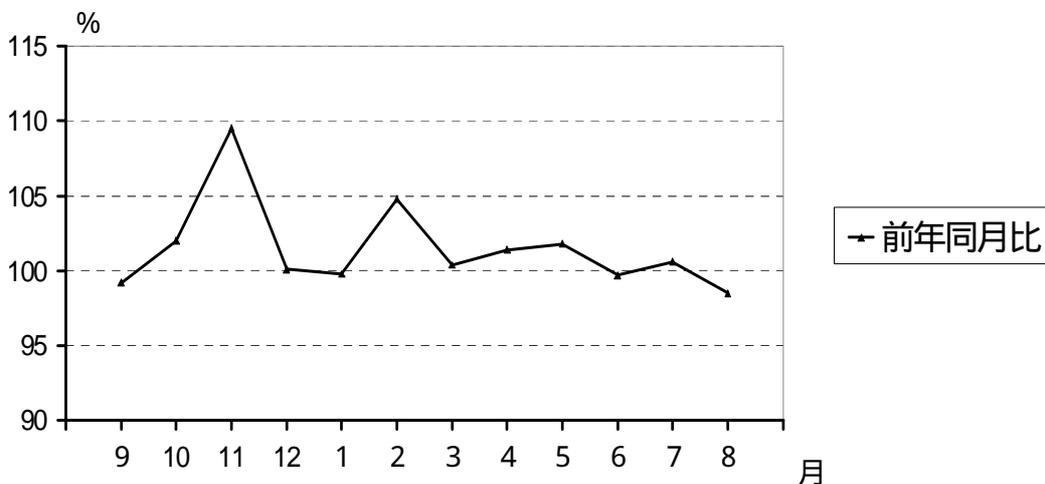
(図2 - 1、図2 - 2 参照)

注) 平成 20 年 4 月から宅配便輸送については調査対象が 1 社増え、20 社となった。
対前年同月比並びに対前月比は、20 社ベースで比較している。

(図2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 26 社の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、中元期が終了したことやお盆休み等に伴う稼働日数の減少等により、すべての品目で輸送量が減少した。減少要因としては、工場・生産地からの貨物減がすべての品目に共通してみられたほか、「金属製品」、「機械」、「日用品」等では季節的需要減、「化学工業品」、「繊維工業品」等では倉庫から出る貨物減等も減少要因となっている。地域的には、「農水産品」が東北、東京、関東で減少したほか、他の品目ではほぼ全国的に輸送量が減少している。

前年同月と比べると、稼働日数の減少及び景気の停滞感の影響等により、すべての品目で輸送量が減少した。前年同月においても前月と同様に工場・生産地からの貨物減がすべての品目に共通する減少要因となったほか、「機械」、「化学工業品」、「食料工業品」、「日用品」では倉庫から出る貨物減も減少要因としてあげられている。地域的には、「農水産品」が東北で減少したほか、他の品目ではほぼ全国的に輸送量が減少している。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数			主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因		
	著増	変らず	著減					
前 月 に 比 べ て	農水産品		13	3	3	野菜、青果物	東北、東京、関東	4
	金属製品		13	6	2	その他の金属製品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 8
	機械		10	8	3	その他の機械、機械部品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 8
	化学工業品		12	9	2	合成樹脂、その他の化学工業品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7
	繊維工業品		15	7	1	織物	東北、神奈川、関東、中部地方、近畿	4, 7
	食料工業品		8	12	1	飲料、その他の食料工業品、加工食品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、福岡	4, 7, 8
	日用品	1	9	11	2	書籍・印刷物、その他の日用品	全国	4, 5, 8
	その他		6	8	8	宅配便、百貨店配送品	全国	2, 4, 5, 8
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1	11	6	1	野菜、青果物	東北	4
	金属製品		12	8	1	その他の金属製品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4
	機械	2	11	6	2	電気機械、その他の機械、機械部品	関東地方、北陸信越、中部地方、大阪、近畿	4, 7
	化学工業品	1	10	12	1	化学薬品、合成樹脂、その他の化学工業品	関東地方、北陸信越、中部地方、大阪、近畿、中国	4, 7
	繊維工業品		14	9		織物	関東地方、中部地方、大阪、近畿、中国	4
	食料工業品		11	8	2	飲料、その他の食料工業品、加工食品	東北、関東地方、愛知、近畿、中国	4, 7
	日用品	1	8	12	1	書籍・印刷物、その他の日用品	北海道、東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、九州	4, 5, 7
	その他	1	7	13	1	宅配便、百貨店配送品	全国	2, 4, 5

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 794 社 / 調査対象事業者数 1,075 社）の輸送量は、前月比 92.4%、前年同月比 95.4%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前月比	92.4%	100.0%	90.3%	88.4%	95.3%	86.7%	92.5%	87.2%	91.4%	91.1%	93.3%
前年同月比	95.4%	99.5%	92.3%	90.7%	98.7%	89.9%	97.2%	94.6%	90.0%	96.1%	121.3%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、対前月比 100.0%、対前年同月比 99.5%であった。品目別には、季節的需要増等により「野菜・果物」、「その他の農産品」、「畜産品」、「食料工業品」の輸送量が増加したほか、建設関連の需要増等により「廃棄物」の輸送量にも増加がみられた。一方、季節的需要減等により「砂利・砂・石材」、「揮発油」、「その他の石油製品」の輸送量が減少したほか、工場・生産地からの貨物減等により「木材」、「動植物性飼・肥料」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送は、対前月比 90.3%、対前年同月比 92.3%であった。品目別には、季節的需要増により「その他の農産品」の輸送量が増加したほか、輸出入増により「石炭」の輸送量にも増加がみられた。一方、季節的需要減等により「畜産品」、「砂利・砂・石材」の輸送量が減少したほか、建設関連の需要減等により「金属製品」、「セメント」の輸送量にも減少がみられるなど多くの品目で輸送量が減少した。車両の稼働日数の減少、燃料高騰の影響も大きいものと思われる。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送は、対前月比 88.4%、対前年同月比は 90.7%であった。品目別には、特に増加が目立った品目はなかった。一方、季節的需要減により「食料工業品」の輸送量が減少したほか、「金属製品」、「その他の製造工業品」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、対前月比 95.3%、対前年同月比は 98.7%であった。品目別には、建設関連の需要増等により「セメント」の輸送量が増加した。一方、「金属製品」、「その他の石油製品」の輸送量に減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月は横這い傾向、以降は増加傾向と予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比 86.7%、対前年同月比は 89.9%であった。品目別には、商社・問屋からの貨物増により「水産品」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減等により「機械」、「セメント」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、対前月比 92.5%、対前年同月比は 97.2%であった。品目別には、工場・生産地からの貨物増等により「その他の製造工業品」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減等により「金属製品」の輸送量が減少したほか、「鉄鋼」、「機械」、「紙・パルプ」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比 87.2%、対前年同月比は 94.6%であった。お盆休みの影響を受け、「化学薬品」の輸送量に若干の増加がみられた以外は増加品目はほとんどなく、多くの品目で輸送量が減少した。特に、前月好調だった「鉄鋼」、「セメント」、「食料工業品」の輸送量の減少が顕著であったほか、建設関連の需要減等により「金属製品」、「機械」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送は、お盆休みの影響により対前月比 91.4%であった。また、ガソリンや物価の高騰による影響のためか、対前年同月比は 90.0%と 10%減少しており、例年になく輸送の感触が思わしくない。品目別には、季節的需要増等により「穀物」、「食料工業品」の輸送量に若干の増加がみられた一方で、「機械」、「揮発油」、「繊維工業品」等の輸送量に減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともにほぼ横這い傾向と予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比 91.1%、対前年同月比は 96.1%であった。品目別には、特に増加が目立った品目はなかった。一方、建設関連の需要減等により「砂利・砂・石材」、「機械」等の輸送量が減少したほか、季節的需要減等により「その他の農産品」、「食料工業品」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、お盆休み等の影響により対前月比 93.3%と全般的に輸送量が減少した。対前年同月比は 121.3%であった。品目別にみると、輸送量が増加した品目として「その他の農産品」があげられる。一方、輸送量が減少した品目として「木材」、「紙・パルプ」、「食料工業品」、「日用品」等があげられる。今後の輸送見通しは、次月は減少傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局										
		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	1			1				1	1		4
	減	1						1		1		3
2. 野菜・果物	増	3	1		2			2		3		11
	減	1	1		1			3		3		9
3. その他の農産品	増	2	1								1	4
	減						1			3		4
4. 畜産品	増	2	1									3
	減		2							1		3
5. 水産品	増	1				1	1					3
	減	2	1					2		1		6
6. 木材	増	1			1			1	1			4
	減	4	1					1			1	7
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増		1									1
	減				1					1		2
9. 金属鉱物	増		1									1
	減											
10. 砂利・砂・石材	増	4			1			1		3		9
	減	8	2	1	1			1		5		18
11. 工業用非金属鉱物	増											
	減		1					1		1		3
12. 鉄鋼	増							1				1
	減	1	2				3	4		1		11
13. 非鉄金属	増											
	減		1				1			1		3
14. 金属製品	増							1				1
	減	1	3	2	3	1	2	3		4		19
15. 機械	増							1		1		2
	減	1	1	1		3	2	7	1	6		22
16. セメント	増	3			3			1				7
	減	3	4			2		3		6		18
17. その他の窯業品	増											
	減		2		1		1	2				6

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
	18. 揮発油	増										
	減	4	1		1	1			1	1		9
19. その他の石油製品	増	1										1
	減	2			3	1	1	1		2		10
20. コークス・ その他の石炭製品	増				1							1
	減	1										1
21. 化学薬品	増							1	1			2
	減		2		1	1						4
22. 化学肥料	増		1		1			1		1		4
	減	1	2		1			1		2		7
23. その他の化学工業品	増		1					1				2
	減	1			1	1		4		1		8
24. 紙・パルプ	増	1					1	2	1			5
	減	1	1	1			2	1	1	2	1	10
25. 繊維工業品	増											
	減						1	1	1			3
26. 食料工業品	増	3	3	1	1	2	3	4	2			19
	減	1	4	2	1	2	3	6	1	4	1	25
27. 日用品	増							2			1	3
	減				1	1	1	3		2	2	10
28. その他の製造工業品	増						2					2
	減		1	2	1			3		1		8
29. 金属くず	増											
	減									1	1	2
30. その他のくずもの	増											
	減									1		1
31. 動植物性飼・肥料	増	1								2		3
	減	4	3							1		8
32. 廃棄物	増	2					1					3
	減	1	2					2		2		7
33. 輸送用容器	増	1	1									2
	減				2							2
34. 取り合せ品	増									1	1	2
	減		1					1		3	1	6
35. その他	増		1		2	1	3	1		1	1	10
	減		2	2	2	3	1	3	1	3		17